

「マイクロコンピュータ プログラムによる 医学統計的方法」

東京医科大学助教授 伊藤樹史 著

東京医科大学教授
岡 林 茂 義

“統計学”と聞いただけで拒否反応を示してしまう人は割合に多い。医学分野での研究に従事し、あるいは臨床実務に携わり、データを分析し、判断を迫られる人々の間でもまた然りであるようである。本書はこれらの人々にとって、統計学に対して勇気を持たせてくれる絶好の書であり、利用度の高い手引書でもある。基礎知識がなければ先へ進めない、内容をよく理解してからでない、と理論も手法も応用することができない、というのはもっともであるが、ときには、他の真似を繰り返す行い、その技工を身につけてから改めて理論・知識の修得をするのも1つの方法である。本書の利用者はその意味で、たとえ統計学を学ばれたことがなくても、本書例題の解法を真似されることによって、自ら得たデータの分析・判断ができ、実務に対応ができるようになるはずである。

本書の特色の1つは例題がまことに豊富なことである。しかも、それらのほとんどすべてが著者自らの接した臨床結果を基にしたものであるから、利用者は自分の研究課題、内容を本書例題のそれと比較し、一致点、類似点を 探すことは容易である。あとは説明文を読み、例題の解法に従えばよい。また豊富な例題と自分の問題とをつき合わせていくうちに、統計学的処理の方法に慣れ、興味を抱かれるようになるのは必然である。

本書名は「マイクロコンピュータ プログラムによる医学統計的方法」となっている。近年はコンピュータ、特にマイクロコンピュータの時代で、頻繁に起こる問題処理は一度プログラムを作っておけば、それに適応するデータ処理はいつでも容易にできるし、緊急時のデータ迅速処理、視覚的病態分析など大変便利で

有効である。本書に記されているコンピュータプログラムは素材が著者の身近なものであるうえに、わかりやすく、巧みに作られている。“医学関係のプログラムはあくまでも医療従事者であるわれわれが、直接プログラム製作に当たらない限り、十分満足のいくことは望めないものと考えている”と著者は自信を持ってプログラムを作っておられるし、利用者はただこれを十分に活用していたただけでよいようになっている。マイクロコンピュータに未だ接していない人、不慣れな人は、将来の動向を考えれば、この際、徐々にでも勉強されるのが得策であろう。しかし、本書はマイクロコンピュータに未知の人でも、市販の計算機（カリキュレータ）を使用すれば例題の活用ができることは有難い。

医学に関係し、不得意ながらもどうしても統計学的処理を必要とする人々、大量のデータの分析判断をしなければならない人々、緊急時の統計的判断を必要とする人々にとって、またとない良い手引書であることを信じて、本書を推薦申し上げると共に、本書が十二分に活用されることを願ってやまない。

B5判 374頁 図110 原色図3
1984 ¥11,500 千300

医学書院 刊